

「函西さっぽろ」

つゝじヶ丘同窓会札幌支部会報

二十四年度 つゝじヶ丘同窓会札幌支部に寄せて

支部長 林寿正 (二十一回生)

今、世の中は歴史的な百年に一度の経済・社会秩序の大変革に直面し、千年に一度の地震・津波の天変地異に遭遇し、「デジタルの大革命など世紀の大分水嶺真つただ中に生きています。十年後の教科書に確実に掲載される現状の中、更に戦後から一億総人任せ、人頼り、内向き志向のような社会になり、そして自虐的な傾向にもなっているようです。しかし、見方を変えればこんなめつたにない貴重な機会を体験し、世紀の大転換期を共に生きていることは、もの凄い何かの運命的・奇蹟的な縁を感じます。それぞれがもつとしっかりと生きよう、自分らしく生きよう。そして今こそ大局を捉え、自分で考え、自分で決断し、人任せ、人頼りからそろそろ脱皮してじっくりと自身の人生を歩みたいとは誰しも分かり切っているのですが……

そうした中で、同窓会は「縁あつての親睦・懇親・懐古から、実はそこに秘める無限の潜在的可能性があるように思います。同志との出会い、一期一会など皆様の多彩な人間力や人生模様に触れたとき、さらなるご自身の気づき、触発、学び、人生の大きなエッセンスになるような気が致します。(所詮人間は人との関わりでしか幸せになれない) そんな可能性に満ちた同窓会を、一緒に楽しみながら、当時は振り返り、友と再会し、ふるさと函館へ思いを馳せましょう。そして、同期会、クラス会で盛り上がりましょう。

今、札幌支部は更なるお手伝いをして頂ける仲間を募っております。現在は、二十数名で会報の発行、ウェブサイトの運営充実(HP・ブログ)、最近

第9号

2012年8月1日
発行部数：2000部
発行責任者：事務局
編集長：田澤義公

志高く

理想を求め、
真理を探究し、
情操豊かに生きる

は札幌ドーム観戦、他校の同窓会との交流などいろいろと活動を充実させてきております(一部Facebookの「利用」)。是非、今後とも多くの皆様との絆を深めて、札幌支部のテーマ「皆様の、皆様による、皆様のための同窓会」として、「一緒に素晴らしい人生を歩みましょう。」

制服と学校生活

馬嶋 元子

(高女三十九回生)

昭和十七年、憧れの高女入学。早速と紺の三本線の制服を注文(先を覚えて少々ダブダブの仕上がり)。手提げカバンは明るい紺一色のメッシュ風・物資不足の戦時下で紙ひも編みに色を塗った工ナメル風の素敵な？靴に大満足しての通学だった。前年一六年の国民学校令のためか「制服はヘチマ袴でベルト付きの国民服を着る様」とのことだったが、未だあまり着る人も少なかった。

夏も勿論、高女の制服をと思ったものの、この年は衣料等点数切符制となり簡単に生地も手に入りにくくなり、母がいろいろ考えた末に白木綿のシャツで作ることにして、衿は生地色共にピッタリの手動蓄音機のカバーで間に合わせ、



援農動員 (昭和19年)

(創立100周年記念誌より)

これ又大満足の夏制服に仕上がった。三年生になると全員国民服にモンペ姿になってしまった。夏は素足。手作りタワシで横一列に並んで若鷺の歌に合わせ木の床をゴシゴシと磨いたのもなつかしい思い出。昭和十九年には「緊急学徒労働員方策」に従って我々も三年生の暮れから終戦迄それぞれの組が遠くは十勝援農や函館市内工場にと動員された。

戦後二十二年の六・三移行までの間、学制改革で落着かない日々を送り二十一年春四年生で卒業、後五年制になり(二組)五年生として一年通学し五年卒業、次は市内から募集して出来た専攻科(一組)を卒業と、三度の卒業式を経験した。昭和十七年入学は一緒でも38回生と39回生に分かれている。この六年間の後半は入学時の制服を裏返して仕立て直し立派に役立った。(表裏三回戦?) 国民服の方は衿を外して赤いボタン止の上衣に早替りで外出用となった。

時代の変化の中での学校生活もそれなりに精一杯過す事が出来た事は幸いなことと感謝している。

西高はるか

伊藤 祐輔 (五回生)

- 一、ふるさと離れ 幾年過ぎて
われは唄ばん 遠き思い出
函館はるか 青柳町は
幸せ薄き 歌人の恋
- 二、海なお青く 山また緑
友と眺めた 巴の港
漁火はるか 住吉の浜
- 三、あゝ、十字街 郵船の浜
弁天行の チンチン電車
初恋はるか 外人墓地に
独り佇む 百合の花
- 四、麓の出湯 立待岬
基の坂に ニコライの鐘
学び舎はるか つゝじヶ丘に
若き日の夢 今、蘇る

団塊世代の高齢化・人口減少に伴う現象と課題

松本 宏一（十五回生）

1. 団塊世代退職にともなう課題

北海道は、2011年から団塊世代の継続雇用が終わり、二次退職が始まり（51年～59年生れが約50万人）今後、若手労働者の急激な減少が予想され、労働力の断層がでる人材確保が困難になると思われます。団塊世代は戦後生まれ、小学校時代から1クラス50名以上で始まり、学校から職場まで競争時代を過ごした有能な世代で、日本の経済発展の核となり、企業の海外進出等、各業界で多大な成果と貢献をしてきました。

60歳～65歳で退職後も経験・能力・技術・体力を十分に蓄えている世代であり、まだまだ企業・社会で活躍できる余力があり、企業・団体はこの人材をいかに活用するかが事業存続・拡大・発展の重要な鍵となります。団塊世代をどうとらえるか、最大の特徴は「数が圧倒的に多い」「特異の技術・知識・能力をもつ」「企画・開発・交渉力がある」等ライフステージが変化をする際、新たな現象を引き起こし、新たな消費マーケットを形成してきました。一つは、団塊世代の圧倒的な数を受入れるためのインフラ（高齢対応の社会基盤等）の絶対量が不足する。二つは、圧倒的な数により従来とは異なる価値観が発生する。（この価値観が社会の主流・潮流になる）また、勤勉・努力家が多く、コンピュータ・パソコン機器操作も可能で多彩な人脈、多様な経験のある世代です。

北海道の人口問題として、2010年の人口550万人が2030年には110万人減の440万人となり、函館市は29万人から10万人減の19万人、旭川市は35万人10万人減の25万人、札幌市は190万人から5万人減の185万人と推測されます。国家予算は狂うが、人口推計は変わらなと言われ、最近マスコミで取上げられております。人口減少問題は限界集落ばかりでなく、限界都市になり得る可能性があります。

そのため、自治体・企業・団体は人口減少社会の到来に向けて早期の対策に（国際化競争への対応・対策、付加価値の創造・創出、団塊世代の再活用・人材確保、外国人の受入・雇用等）取組むことが重要です。

2. 人口減少にともなう現象：最近、日常生活で人口減少にともなう気づくこと目につくこと新たな変化が多数起きています。

・私学経営難（幼稚園・高校・大学）、公立小中高校の統合・廃校、地方ほど状況悪化（平成6年比学生4割減）

・ランドリー業界は団塊サラリーマン退職増によりYシャツ・スーツ洗濯不要で売上減少

・運輸業界は若手ドライバー不足、ドライバーの高齢化による健康・安全上の問題、業界の過当競争で収益減・コンビニ業界は経営者の高齢化、後継者の不足で廃業の増加、直営化に切替え販売シェアの維持

・水産加工業界は日本人の3倍嫌い、人手不足をアジア人雇用（研修・実習）で工場等を維持・老人施設・介護施設及び介護員の不足（今後、介護要員には外国人ヘルパーが必要となる）

・30代自身の就労女性の高齢化（40～50歳時に親の介護が始まり働く事も難しくなり、親の死後は単独世帯となり孤独・孤立問題が浮上する）

・30歳代女性は婚活も厳しく、結婚できる可能性は約10%（3年以上恋人なしの女性が40%）で少子化の一因になり、2030年には単独高齢世帯が増加（生涯未婚・離婚・死別）全道で180万人以上と予測されます。

・単独高齢者の増加で購買力・行動力が縮小する。（百貨店・スーパー・外食産業は物が売れない・来ない）

・不動産業界はアジア人の富裕層をターゲットに販売（東京都山の手線内のビル・マンション、軽井沢の高級別荘、山林等）千歳市で住宅販売会社は、（札幌在住・中国人オーナー）と中国大手通社と提携しインターネットで不動産情報千件以上を中国へ発信、人気の不動産は札幌市内、二七〇地区です。

上を中国へ発信、人気の不動産は札幌市内、二七〇地区です。

・生徒・学生数は少子化によりピーク時と比較し40%減、学校数は10%減（今後は老朽化・維持費問題等で統廃合が加速する）

・私学高校生は北海道内で29,900人と減少中、2030年には全道の子供数36万人（15歳以下）になり大きな影響を受けます。

・人生終焉ビジネスとして全国の葬儀場及び関連事業の新設・拡張が特に目立ちます。（団塊世代の逝去・10～20年後をターゲットに準備中、今後、数十年間は葬儀場・遺体安置所等の不足が予測される。）少子高齢化・人口減少にともなう現象は函館市のみならず北海道の各都市でも同様に起きています。

3. 問題と対策：高齢化と外国人問題

アジア諸国の人口が増加する中で、日本では高齢化が人口減少を加速し地方のみならず都市圏で高齢者が急増しています。（たとえば中国も今後、高齢化社会が急激に進み、介護・医療問題が大きく浮上してきます。）

労働力・購買力を維持・拡大を図るため、外国人への対応は避けて通れない課題で、長期滞在・移住の受入対策が急務となります。

アジアへ進出している道内企業数は中国へ70社、香港へ8社、台湾へ20社、シンガーポールへ7社があり、また、国際線航空のオープンスカイ、ハブ化、100等により今後企業間の交流・進出は増加を続けていきます。

アジアから道内への長期滞在者は中国・香港・台湾で9,500人、平成21年に来道したアジアからの観光客は中国9万3千人、香港13万人、台湾18万人、日本国内で一人当りの消費額は20万～80万円（4泊5日以上、滞在費・土産品・家電製品・化粧品・飲食代等）で、今後、富裕層の来日は益々増加することでしょう。拡大するアジアマーケットへの取組み、多数の団塊世代を活用し（北海道人口の十人に一人が団塊世代）異業種企業とのコラボレ

「シヨン」による「ニュービジネス」の創造・創出により
新たなマーケット展開を図ることが必要です。

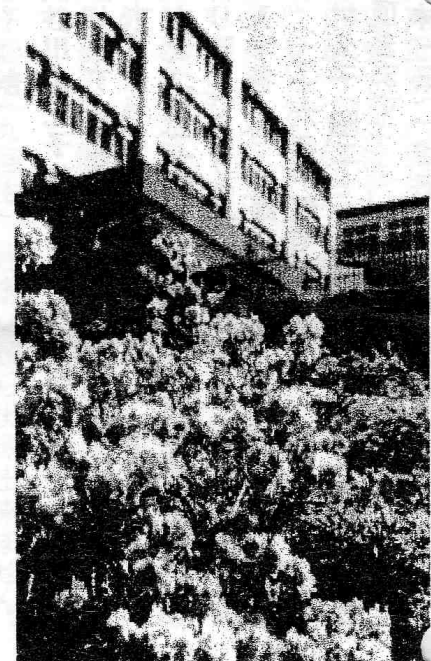
リタイヤした団塊世代はその優秀な能力・技術
を活かし、多数アジア(現在は中国が多い)で貢献
しています。そのため現状の課題を次世代に先送
りせず、団塊世代の能力・技術・経験・人脈を活
用することが、重要になってきます。

ヒントとしては福祉・医療・教育のできる「まちづ
くり」様々な分野と働き生きることが見える社会
づくり、地域社会の活性化(本州から移住・定住の
促進、外国人の長期滞在受入の規制緩和等)、その
力ギは団塊世代の多様経験・能力を充分に活用す
ることです。

我が母校の所在地、函館市の近來・未来ついで勝
手に述べてみます。函館市の課題は「駅前・西部地
区の再開発」と医療福祉の「新たなまちづくり」で
す。これにより、人口減少・高齢化都市の問題解決
の一助となるでしょう!

キーワードは「ノジュールエイジ&メディカルタ
ウン・メディカルツーリズム」

高齢化対策・都市活性化に向け、「健康都市をめざ
し、医療大学・医療施設(高度医療病院)・高齢者施
設」等を核にした「駅・西部地区を中心に特色ある
新しいコンパクトなまちづくりが必要。観光客
誘致は単なる駆け足的、物見遊山から、長期滞
在・交流・移住・定住、インバウンドを含むメディカ
ルツーリズムによる新たなジャンルの開発、世界の
トレンドを反映する展開が望まれます。「住む人・
来る人・学ぶ人・働く人」の受入れを増やすことが
「新たなまちづくり」につながります。尚、新たな
まちづくりの実現のために、強い政治力と市民のコ
ンセンサスが求められます。そのため、市の有力
者・地権者は協力を惜しまないことです。
結びに人口減少問題対策が都市の再生、経済の
活性化につながり、「新たなまちづくり」の核にな
ります。新幹線の札幌開通前に「再生都市・新函
館」の実現を期待してやみません。



幾年月とともに

山口 シゲ子 (十七回生)

人は一生のうちには様々な人と出逢い、別れ、そし
て年を重ねて行くほどに、もう一度逢いたいと思
う人が増えて行きます。

永六輔さんの作詞で『逢いたい』という曲があり
ます。「あいたい」という言葉だけが七十回以上
も続く曲です。ある人は語りを入れ、当時五十年
だった私はこの曲に心を惹かれました。

逢いたい...逢いたい...
「あなたは誰に逢いたいですか？」
あなたの逢いたい人は誰？

夢の中でしか逢えない憧れのスター
すぐに打ち解け合える仲間たちに
疎遠になつている兄弟
遠い故郷にいる父・母に...

突然家を出て行った息子に...
残してきた子供たちに...
もう帰る事のない遠い処に行つてしまつた友達
すぐ近くにいるのになかなか逢えないあの人
逢いたい...逢いたい...と、そんな曲です。

あれから月日が流れ、この譜面を送つてくれた同
い年の彼女は逝き、六十代になつた私にも「もう
一度逢いたい人たち」は増えて来ました。

皆さんへ、今あなたは誰に逢いたいですか？

高女に学ぶ三人の乙女の物語 北村 巖

(十八回生 本名・田澤義公)

大正末期、ある三人の乙女が庁立函館高女(現・
函館西高)に入学する。三人は函館出身ではなかつ
たので寄宿舎生活をする。三人とは小川貞子(八
雲の野田生...: 當時は野田追)、和田照子(長万部の
国縫...: 當時は訓縫)、岩間スエ(森町)であり、彼女
たち三人はともに文学少女であった。彼女たちは
勉学に励みつつも日夜、文学への思いを語り合つて
いく。そのような彼女たちの前に、いつしかその文
学に応えてくれる青年たちが現れる。.....

やがて、彼女たちの文学への憧れが恋へと膨らむ
のにさほどの時を必要としなかった。三人はそれぞ
れ文学青年との恋におち結ばれていくこととな
る。

日本近代文学を代表する作家となつた伊藤整と
結婚したのが貞子である。二人は当時、森駅の近
くにあつた「黒田旅館」で待ち合わせをしていたと
いう。その貞子と整を結び付けるきっかけとなつた
のは当時小樽で文芸誌「青空」を主宰していた川崎
尚が「小樽新聞」の文芸欄に書いた書評からであ
る。尚は整の処女詩集『雪明りの路』についての紹
介文を「田中兼通」の筆名で発表。それをたまたま
読んだ貞子が、文中で紹介されていた「伊藤整」の
詩に感動し、整に手紙を書いたことから二人の交
際が始まる。その尚がスエと小樽で出会いやがて結
婚していく。また、長編小説『塵の中』で直木賞を
受賞した和田芳恵と結婚したのが照子であるが、
芳恵は最初は貞子とつきあつていたという言説も
ある。ちなみに芳恵と照子は従兄弟どうしの結婚
であつた。

大正末期、函館高女の校舎にて文学への夢を語
り合つた三人の乙女の物語である。まさしく、「大正
ロマンチズム」は都から遠く離れた函館の我が母校
にも、確実に流れていたのである。

さてこれで紙数が尽きた。かの「とき文学談義
に興味ありの同窓の文学の友あらば、こゝ一緒に
語りあいたいと思つています。いかがですか.....

【出席の方】 (敬称略)

馬嶋元子(高女三十九) 何時もご案内有り難う存じます。大災害やら大雨など色々なことの多い本年、何とか出席させて頂ける幸いを感じて居ります。一年余りかけ未熟乍らやと先祖のルーツ探し終えホッとしております。

水谷武(四回生) 幹事の皆様ご苦勞様です。昨年久しぶりに参加したが楽しかった。年齢が年齢なので話し相手がいないのかなと心配したがそうでなかつた。運営大変と思いますが頑張つて下さい。中川誠(六回生) つくじヶ丘同窓会の益々の発展を祈念申し上げます。

齊藤征康(六回生) 「函西さつぽろ」読ませて頂いた文化系で活躍されている方が多いことを認識しました。ありがとうございます。

田中正身(八回生) 同期会も充実させましよう。前後3年は同じ時代に在学。少数の回は合同で。庄司美千恵(十二回生) お久しぶりです。年々記憶が衰え、札幌に来てから数回しか出席していませんので失礼してしまいそうですが宜しくお願い致します。

【欠席の方】 (敬称略)

市川実(恩師) お元氣の事と存じます。私も八十一歳になりました。欠席をお許し下さい。

藤井康雄(本部事務局) いつもお世話になっております。札幌支部の益々の発展をお祈り申し上げます。(本部事務局：二十五回生)

富士昭一(関西支部会長：三回生) 出席したいのですが足が伸びません。十月五日～八日は函館に出かける予定です。皆様によるしく。

早坂和子(高女三十六) 体調不良の為欠席させて頂きます。ご案内有難う御座いました。益々の御発展をお祈り申し上げます。

西村美代子(高女三十六) 右骨折のため入院中。皆様の御多幸をお祈りします。

岡村あい子(高女三十六) 大変お世話様です。折角のお誘いですが高齡の為体調悪く病院通いの毎日です。御盛會と共に皆様の御健康を祈念致しております。

大脇幸子(高女三十七) 残念ですが出席出来ません。つくじヶ丘札幌支部の御盛會をお祈りします。幹事様ご苦勞様でございます。

伊藤佳子(高女三十八) 今後同会の御盛會を祈念申し上げます。

牧野みゑ(高女三十九) お当番ごころう様です。久しぶりに出席したい思いでしたが春に圧迫骨折をして自然治癒のため半年はかかるとの事で残念ですが諦めます。盛會なる事を...

福原敏子(高女四十) 御盛會をお祈り申し上げます。今後何かの機会に母校訪問などの企画がありましたら参加したい等と考えております。

菅野恵美(昭二十高女) 御案内状うれしく拝読致しました。函館への旅行がすでに決まっていますので残念です。幹事の皆様、本当に御苦勞様です。盛會をお祈り申し上げます。

中川昭子(昭二十高女) 体調悪く通院中ですので出席出来ません。皆様によるしくお伝え下さい。

吉武貞子(昭二十高女) ご案内ありがとうございます。小さな故障は年齢相応に生じてきましたが日々楽しく有りがたいと思いついています。今年六月三日に同期会を開き十七名の懐かしい顔が揃い、話が尽きず...来年の再会を約束しあいました。

長谷川由紀子(昭二十高女) 都合が悪いので失礼致します。男女共学で中部高に移動、第一回卒業です。

田中愛(昭二十高女) 懐かしい皆様の御健康をお祈り致しております。昭和二十年二十一年斤立高女入学者、西・中部・東に分散した五年次終了者です。(二十六年中部卒)

田村久子(昭二十一高女) 体調不良の為欠席させて頂きます。

林一三(一回生) 体調不良の為欠席します。

渡辺清(一回生) 物忘れが多くなる歳になり出席が億劫です。皆様の御多幸を祈ります。

浅利欣吉(一回生) 西高卒業生同士の「おしどり夫婦」と言われて結婚生活五十年。その妻が亡くなり間もなく三回忌です。十五日は先約があり失礼いたします。ご盛會でありますように。

新井田治子(一回生) 今年も欠席、申し訳ありません。元氣なうちに必ず出席しようと思っております。「函西さつぽろ」毎年楽しみに読んでいます。

名取昭二(一回生) 昨年は久しぶりに出席致しました。会員皆様の元氣なご様子を拝見し、幹事の皆様のご苦勞に御礼申し上げます。残念ながら今回は都合がつかず欠席致します。

上杉秀子(二回生) いつもありがとうございます。元氣であります。

西尾登(三回生) 当日は海外旅行中で出席出来ません。御盛會をお祈り致します。

小林康二(三回生) 皆様お元氣でいらつしやいますか。いつも欠席ですみません。皆様の御健康をお祈り申し上げます。

河辺政子(三回生) いつもご案内有りありがとうございます。当日所用があり出席できません。ご盛會をお祈り申し上げます。

桜井啓子(四回生) 伊藤編集長様ご苦勞様でした。今年も拝読させていただき、感謝。当時を思い出し卒業アルバムを開きました。方々の活躍に感動、一層の発展を祈念しています。

堺ゆき子(四回生) いつもご案内ありがとうございます。欠席で申し訳ございません。

土橋多一郎(四回生) 毎年、大変お世話になり御礼申し上げます。御盛會をお祈りします。

田口由美子(四回生) いつもご案内ありがとうございます。「海炭市叙景」は息子(駒場小、附属中)と縁があり二人で二回観ました。とても感動いたしました。今も心に残っています。ご盛會を祈ります。

渡辺昭司(四回生) 世話役の皆様ご苦勞さまで。先約あり欠席申し訳ありません。

佐藤富雄(四回生) 行事が重なっており残念ですが出席出来ません。当会の隆盛と今後益々の発展を祈念致します。

越田高弘(四回生) 所用あり出席出来ません。御盛会を祈念申し上げます。

高木哲郎(四回生) 御盛会を祈念しています。西高時代は青春の思い出で一杯です。今も思い出します。懐かしく思います。

宮本順也(五回生) ご案内ありがとうございます。

坂井祥仁(五回生) 平成十七年より入退院を繰り返しながら闘病生活を送っています。皆様によりしくお伝え下さい。

久村正也(六回生) 同窓会まとめ役、誠に「苦勞様」です。感謝しています。

西巻健三(六回生) 予約していた行事と重なり残念ながら欠席致します。

木村登美(六回生) 地域の同年者と楽しく、良い人生を過しております。皆様にごぞよろしく。

品野健一・怜子(六回生・十二回生) 毎週土曜日は六時から仕事があるため残念ながら出席出来ません。

中村紀子(六回生) 何とか元気に、普通に生活しております。

坂西雅子(七回生) 「海炭市叙景」観ました。大変良い映画でした。製作実行委員会の方々の「ご努力」に敬意を表します。札幌支部会報第八号の「函館西高と文学」とても興味深く拝読いたしました。

北恒也(七回生) 元気で働いています。次には会えることを楽しみにしています。

加藤恵美子(七回生) 体調思わしくありません。

長谷川武臣(八回生) 都合により欠席致します。

高田康子(八回生) これからも皆様方の御健康と御活躍、そして素敵な年輪を重ねていかれますように念じております。

田井敬子(八回生) ご案内有難うございます。今年も市民合唱祭と重なり、残念ですが欠席致します。御盛会をお祈り致します。

大戸正明(八回生) 野暮用と重なり欠席します。ご盛会を祈念致します。

堀口耕一(九回生) 同期会出席の為、帰札が十五日になり欠席致します。

藤本正男(九回生) 日々幸せだな」と感じて生活しています。

奥村泰三(九回生) 残念乍ら今月は諸行事集中のため欠席とさせて頂きます。今年は異常?です。

九島紘子(九回生) いつもお便り有り難うございます。

石子彭培(九回生) 残念ながら出席出来ません。盛会をお祈り致します。

富田玲子(十回生) 当日、同期会が函館でありそちらに出席します。

池野良一(十回生) 体調すぐれず今回は欠席とさせて頂きます。盛会を祈念しております。

鈴木正人(十回生) 珊瑚会開催にぶつかり欠席します。

久保勝哉(十回生) 珊瑚会開催にぶつかり欠席します。また機会あれば一助とりたい。

長谷部和夫(十回生) 珊瑚会開催にぶつかり欠席します。申し訳ない。

品川武世(十回生) 体調不良の為欠席致します。

山崎弘美(十回生) 珊瑚会開催にぶつかり欠席します。

津山広行・悦子(十一回生・十二回生) 当日は野暮用のため欠席致します。皆様の「ご健勝と会のご盛会をお祈り申し上げます。

棟方亮平(十一回生) 幹事の皆様「ごくろう様」です。今年卒業五十周年記念同期会が函館にて開催されます。

佐藤由美子(十二回生) 体育館に集められ大声で歌った応援歌第一と第二をまた歌いたいです。病人を二人かかえていますので、またの機会に是非参加したいと思えます。幹事様、「ご苦勞様」です。

大場太二(十二回生) 旅行計画あり欠席させてもらいます。幹事役員の皆様いつも「ご苦勞様」です。

木村弘道(十二回生) ご盛会をお祈り致します。

田上耕三(十二回生) 今年も出席出来ませんが御盛会を祈念致します。

藤井京子(十二回生) いつもありがとうございます。函館に行ったとき、山を眺め学生時代を思い出、いい時代の学生生活であったと恩師・皆様に感謝申し上げます。

田中朋子(十三回生) 盛会をお祈り致します。

佐藤尚子(十三回生) 他のイベントと重なってしまいました。申し訳ありません。

藤原祐助(十三回生) 案内ありがとうございます。都合により参加できません。会員皆様の「ご健勝を祈ります。

山口美耶(十三回生) いつも「ご苦勞様」です。十月八日から北斗市の実家です。欠席致します。

河辺喜美子(十四回生) ご盛会をお祈りしています。

田中紀子(十四回生) いつも御連絡ありがとうございます。同期生とは五年前に還暦祝(湯の川)で会いました。今回は中学卒業五十年にあたり、そちらに出席予定です。

奥川裕二(十四回生) 当日函館で船見中学の同期会へ行きますので今回は参加できません。御盛会をお祈り致します。

林元義(十四回生) 元気にやっています。皆様によりしくお伝え下さい。

小野幹雄・和子(十四回生・十六回生) 元気にしております。

渡辺功(十四回生) 今年はぜひ参加と思っていたのですが残念です。

丸山 昭子(十四回生) お当番の皆様、お疲れ様です。

石本康平(十四回生) 所用につき欠席させていただきます。ご盛会を「ご祈念申し上げます。

義下雄一(十五回生) 脳梗塞リハビリ療養中です。小川原房子(十五回生) 「ご丁寧な案内ありがとうございます。

十河良子(十六回生) いつも欠席で申し訳ありません。「ご盛会をお祈り申し上げます。

杉浦沙知子(十六回生) 支部役員の皆様、御苦勞様です。この時期いつも忙しく欠席ばかり…申し訳ありません。

坂本京子(十六回生) どうしても日程調整つかず欠席させて頂きます。ご盛会をお祈り致します。栗塚享(十六回生) 案内ありがとうございます。この時期は大学のリーグ戦と重なり参加できません。残念です。皆様によろしく!

菊地裕(十七回生) 幹事さんにはいつもご苦勞をお掛けしております。竹内健一(十七回生) 残念ながら日程がとれず欠席します。

三浦秀樹(十七回生) 案内をいただき有難うございます。残念ですが、都合により不参加とさせていただきます。申し訳ありません。

田村勉(十九回生) 御盛会をお祈り致します。成田明(十九回生) 残念ながら今年はお席出来ません。また皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。

真鍋壽子(十九回生) 今年は都合により欠席致します。申し訳ありません。来年皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。

市川恵里子(十九回生) 御案内ありがとうございます。出席できずに申し訳ございません。

松坂滋(二十回生) 高校時代は吹奏楽部に所属しておりました。青とき子(二十回生) お知らせありがとうございます。都合により出席できませんが楽しい会になりますように。

袴田智(二十回生) ご案内ありがとうございます。折角ですが東京転勤につき欠席させて頂きます。

浜本美子(二十回生) 北村氏の「函館西高と文学」を興味深く読ませて頂きました。ご盛会をお祈り申し上げます。

大坂雅春(二十回生) ご案内ありがとうございます。所用のため出席出来ません。ご盛会を祈念しております。

山吹珠江(二十一回生) 行事と重なり今回も欠席させて頂きます。役員の皆様方には本当にお世話になっております。

千龍季子(二十一回生) 都合により欠席致します。皆様の健康ご多幸をお祈り申し上げます。佐藤隆一(二十一回生) ご案内、ありがとうございます。残念ながら所用のため、出席することができません。申し訳ありません。

中村優(二十二回生) ご盛会をお祈り致します。後藤志信(二十二回生) ご案内有難う御座います。いつも欠席で申し訳ございません。ご盛会をお祈りしています。

笠井靖子(二十二回生) 幹事の皆様ご苦勞様です。都合により欠席致します。皆様によろしくお伝え下さい。

筑野範子(二十四回生) ご案内ありがとうございます。都合により欠席致しますが、いつか出席したいです。

片山淑子(二十四回生) 幹事の皆様ご苦勞様です。ご盛会を祈念申し上げます。

荒川祐子(二十六回生) なつかしい御案内、お知らせいつもありがとうございます。ご盛会をお祈り申し上げます。

佐藤隆保(二十六回生) ご案内ありがとうございます。残念ながら、支部総会には都合により欠席させて頂いたいただきます。

戸谷慎子(二十八回生) いつもご連絡ありがとうございます。残念ながら所用あり出席できません。

藤田敦子(二十八回生) いつも御連絡頂いているのに参加できず申し訳ありません。当日、函館にいます。

堀田知子(三十三回生) 欠席ばかりで、今回こそと思つたのですが会社の研修と重なり残念です。出雲武久(三十三回生) 仕事の都合で間に合いません。残念ですが欠席です。佐藤一彦(三十三回生) 仕事の都合上、申し訳ありません。今後もよろしくお願い致します。

山田麻利江(三十三回生) 幹事の皆様にご苦勞様です。同期の名簿を見ながら皆がどれだけ「おっちゃん、おばちゃん」になったかニヤけてます。楽しい時間をお過ごし下さい。

生瀬裕司(三十三回生) また次の機会に宜しくお願ひします。

小辻竜子(三十三回生) 今年からついでに丘同窓会札幌支部のお仲間に加えて頂き嬉しく思います。今回は残念ながら参加できませんが今後とも宜しくお願ひ致します。

長谷川優美子(三十三回生) 札幌支部があるとは知りませんでした。卒業してからもうすぐ30年!是非参加したかったです。是非参加したかったです。是非参加したかったです。

本川尚巳(三十三回生) 仕事の為出席出来ません。ご盛会を祈念します。

石川敬之(三十三回生) 出席したかったのですが、仕事の都合で欠席させて頂きます。皆様によろしくお伝え下さい。

佐藤克裕(三十三回生) 翌日マラソンがあるため残念ですが今回は欠席致します。

上川泉(三十三回生) 今回は残念ですが参加できません。次回を楽しみにしております。

多田真(三十三回生) 幹事の皆様ご苦勞様です。福岡出張と重なり今回は失礼致します。

鈴木こずえ(三十五回生) 残念ですが欠席させていただきます。



平成二十三年三月十一日、地震、津波、原発事故などが同時多発的に東北地方太平洋沿岸部を襲う。いままでも平穏な日常生活を送っていた多くの住民は、こんなに辛くて哀しい気持ちになるとは思わなかつただろう。刻々と入る新聞・テレビなどの報道を通じ現地の深刻な被害状況が伝えられた。そのあと、ボランティアの支援活動が動き出したことを知る。

当初、被災地域では、団体ボランティアを受け入れるが、個人ボランティアや車の乗り入れはだめなど受け入れ側の条件が難しい時期もあった。

私は一人で被災地へ行くことを決めてから、まず受け入れ側の条件を確認し、ボランティア活動保険に入り自己責任で寝る場所、食料の確保、現地で使う作業用のゴム手袋、防塵マスク、長靴、ゴーグルなどの防災用具一式をそろえた。

九月八日、大型の登山用リュックを背負い札幌駅を朝七時の汽車に乗り、個人ボランティアに寛容な岩手県釜石市に向かう。釜石で思いだすのは、昭和四十年ころの函館西高ラグビー部全盛時代の時、新日本製鐵釜石に入社した同期生や後輩達がラグビー選手として全日本の舞台で活躍したことである。彼らは昭和五十年代の新日鐵釜石のラグビー全盛時代を築いた一員でもある。彼らは、釜石の駅前に立ち、目の前にある新日鐵工場の大きな煙突からもくもく吐き出される力強い煙を目の当たりにし、希望に胸をふくらませていたに違いない。

釜石駅前には、津波の影響が少なかつたために当時と景色は変わらなはずだが、唯一違うとすれば、新日鐵の工場前に災害のがれきがあらず高く山積みされていくことぐらいだろう。釜石の災害支援ボランティアセンターは釜石駅の近くにありプレハブの仮設小屋である。毎朝、ボランティアセンターの若者達を中心にあわたたく準備が始まる。その日の作業は、ボランティアの参加人数と作業内容に応じて力仕事や

被災者の要望などに合わせた仕事に分けられる。

釜石港に近い県道沿いの中心商店街は二階天井まで浸水し壊滅状態であったことから、支援活動はその地域を中心に進められた。私は既に退職しているが、まだ若い者には負けれないという気持ち(いいふりこき)で力仕事を希望する。

ボランティアの作業は、四人から五人くらいで班を作り、私は、二十代から三十代くらいの大学生、社員と一緒に行動を共にした。我々の作業は、浸水から免れたビルの三階以上にある大型家具や冷蔵庫などを狭い階段から降ろし、それを被災者の要望に応じて仮設住宅と一時保管場所の体育館まで運搬する。また、別な日は、浸水した家やビルの泥出し、床洗浄、排水溝の泥上げなどをする。

毎日、私は昼休みにコンビニで買ったおにぎりを食べながら、若者達とボランティア活動のあり方、被災者に対する想いなどを話し合った。この若者達に比べると私の若いころは、将来に対する目的意識がないまま漫然と過ごしてきたように思う。人生の先輩としては、適切なアドバイスは何もできず、ただ若者の話を感心して聞くだけであった。

作業が終わわり、被災者の方から「ありがとうございます。」と言われ頭を下げられた。逆にこちらこそ「少しでも手伝うことができありがとうございます。」と言いたかったが、被災された方それぞれの辛い想いを考えると適切な言葉が出ない。

青森から札幌へ向かう帰りの汽車の中で、遠ざかる青森の空を見ながら「元氣なうちは、また東北に来るから。」と想い、そのあとすぐ青函トンネルの暗い間に吸い込まれ、腰の痛み、疲れと共に深い眠りに落ち、目が覚めたのは乗り換えの函館駅だった。

命

「お母さん、私 赤ちゃんが出来ました。今三ヶ月だつて！」去年、三月十日のことです。

結婚して七年、不妊治療五年目になります。

私は夫と伊勢神宮や京都へ赤ちゃんが授かる様お参りに何度か行ったりもしました。実の娘とはいえプレッシャーを掛けない様に応援するのはなかなか気を遣うものです。

とにかくお金も時間も掛かり、苦痛を伴う治療を働きながら諦めずに頑張った娘夫婦が幸運を勝ち取ったのです。皆大喜びです。

そして、その翌日：日本中の人が、世界中の人が忘れられない三月十一日がやって来るのです。

私はその日、浮かれた気分です。パートに出かけ、地下食品売場で大きな目まいを感じ、早く家に帰らなければと思ったものです。しかし、そのあと一階にいた店員さんから大きな地震があったのだと知らされました。地下鉄は止まり、三越地下入口の画面テレビには沢山の人が群がり何も言わずに大津波の画像を見詰めています。大変な事がいま日本に起きていると思っても、それを声に出来る人はいなかつたのだと思います。それから毎日、此の世の出来事とは思えない映像が続くのです。テロの九・一一とは違った自然の力の恐ろしさを思い知らされるのでした。人間の生と死は本当に隣り合わせです。その人の持つて生まれた運命なのでしょうか。そんな言葉しか見付かりません。忘れられない平成二十三年三月十一日、そしてその七カ月後の十月二十一日、「初孫の奏乃」が生まれました。今五ヶ月になり皆に笑顔を振りまいています。失われた多くの人の命を思うと、やっと授かり無事生まれてきた孫の誕生に感謝し、亡くなられた方々の分まで元氣に成長して欲しいと願うばかりです。

今、あの被災地にも花信風はやって来たでしょう(平成二十四年四月七日)

卒業したら同窓会へ 事務局長 菩提寺 孝幸 (三十三回生)

札幌支部運営にいつも温かいご支援をいただき心より御礼申し上げます。

平成二十三年年度の総会は、「ご来賓に恩師小原孝男先生・安房節雄校長先生・本部毛利悦子副会長・東京支部齊藤勝美氏、中部・東・北高同窓会の各札幌支部代表をお迎えして、十月十五日札幌きょうさいサロンにて開催致しました。参加者は旧交を温め、新しい出逢い(先輩後輩)に喜び、応援歌や校歌斉唱など懐かしみ、楽しい時間を過ごしました。

さて、私が初めて札幌支部に参加したのは、今から七年前で、同期の参加はゼロでしたが、同席させて頂いた六回生の皆さんはじめ先輩方に良くして頂いたこと・年齢が違っても同窓同郷の集まりであること等から、他の会合とは違う温かさを感じて、それ以降毎年出席させて頂いております。

最近、総会の他、役員会、連絡業務、本部総会出席、東京・関西支部との交流等もあり、「西高」「函館」との繋がりをを感じる機会が増えていきます。

一方で、千通以上の案内状を送付しても返信は三百人前後。参加は五十人〜七十人、寂しさも感じますが、都合が合わないこともあるだろうし、誰もが故郷や母校に懐かしさや良い思い出を持つ訳ではなく欠席や返信をしないことも理解しなければならぬと思っております。

ところで、会則の第二条に「…母校の発展に寄与することを目的とする」とあります。懐古の情は求めなくても、母校や後輩の為であればと、新たに参加いただける方はおられないであろうか…。昨今の厳しい環境の中で巣立つ後輩たちの支えになれる同窓会でありたいと思ひ、西高在校時から同窓会の存在を広め、新卒者へのアプローチを強化していきたいと考えております。

平成二十三年年度総会で実施のアンケート結果、同窓会について、西高との「コラボレーション」や新卒者参加などを希望するご意見があり、早速、支部役員会にて協議し、本部 中山会長「承認のもと、

事務局長藤井先生のご協力を得て下記案内チラシを平成二十三年度つゝじヶ丘同窓会入会式(二月二十九日)にて配布致しました。

今後も「札幌市・近郊で開催される全道大会の応援」、「支部総会で美術部・写真部の作品展示」、「生徒会新聞局と当会報の「コラボ」など後輩たちとの関わりを深めていければと思っております。

六月十六日の新卒者歓迎会(札幌ドーム・野球観戦)には、六十二回生二名を含む十四名が参加し、一緒に熱い声援を送りました。六十二回生の氏家さん・田中さんは今後とも顔を出して頂けるとの事ですので改めてご紹介させて頂きます。

アンケートには「総会以外のイベント実施」のご要望もありましたので、ランチ会や母校を訪ねる旅なども企画できればと思っております。

また、同窓会への参加は、イベントに出席するだけではなく「会報」への寄稿という形もあります。函館や西高時代の思い出のほか、随筆、詩、俳句、川柳、近況報告等お寄せ下さい。様々な形で皆様にお会い出来るのを楽しみにしております。

『卒業したら同窓会へ』は、東京支部ホームページにあるフレーズです。一緒に「つゝじヶ丘同窓会」を盛り上げていきましょう!!!



球観戦(札幌ドームにて)

【維持費納入のお願い】

つゝじヶ丘同窓会札幌支部は、皆様の会費により運営されております。今年から郵便振込も可能と致しました(同封の用紙をお使い下さい)。年 1,500 円です。

つゝじヶ丘同窓会札幌支部

札幌市豊平区平岸 2 条 6 丁目
電話 011-831-4622(林)

(Mail) nishiko@tsutsujigaoka.net
(HP) http://www.tsutsujigaoka.net/

【編集後記】 前任者の名編集者・伊藤祐輔さんから何の打診もなく突然「ご指名を受け会報の編集を引き受けることとなりました。大先輩のご命令であれば致し方ないと引き受けてはみましたが、この会報はほとんど事務局長の菩提寺孝幸さんのご努力によるものであります。感謝!

また、今回会報の執筆依頼に快く玉稿をお寄せ頂いた皆様、本当にありがとうございました。これまた、感謝!の一言です。

田澤 義公

卒業したら同窓会へ

札幌市および近郊の市町村に選挙・就職、居住予定の皆様へ

札幌市および近郊の市町村に選挙・就職、居住予定の皆様へ

札幌市および近郊の市町村に選挙・就職、居住予定の皆様へ

お申込みはつゝじヶ丘同窓会 札幌支部 事務局

TEL	011-831-4622	ホームページ	http://www.tsutsujigaoka.net/
FAX	011-831-4622	メール	nishiko@tsutsujigaoka.net

上記で、任意で名前・住所をお知らせ下さい。お電話・メール・FAXは24時間です。